

令和3年度  
自己点検評価報告書

学校法人 江楠学園 佐賀工業専門学校

## 1 学校の教育目標

本校は「何処の場にありても なくてはならぬ人となれ」という建学の精神のもと、先進的な工業技術を座学、実習の両面から徹底的に指導するとともに、豊かな教養を身につけ、企業の即戦力となる責任感旺盛な人材の養成を目標とする。

## 2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

令和3年度では、以下について重点的に取り組み教育を行った。

### (1) 自動車学科

- ・ 二級自動車整備士10年連続100%合格を目指し、学生一人一人に合った指導を徹底するとともに、校内での企業実習を増加させることにより各自動車メーカーの新技術の習得を目指す。
- ・ 就職率100%を目指し、1年次早めの会社説明会参加を促す。
- ・ 企業から求められる人材教育（マナー研修）は外部講師を招いて実施する。

### (2) エアポートサービス学科

- ・ 就職後、即戦力として業務に従事できるようグランドハンドリングの座学及び実能技訓練の質の向上を図る。
- ・ 実車を使用した現地佐賀空港での実践実習は、就職後の自信の付与にも繋がることから協力企業との連携を図り充実させる。
- ・ 就職率100%を目指し、積極的に校内企業説明会を開催するとともにあらゆる場面を通じ企業情報を提供し、スムーズな企業選択により早期就職内定の決定を図る。
- ・ 在学中に英検3級合格を目指す。合格者並びに保有者はさらに上級を受験し合格させるよう指導を図る。

## 3 評価項目の達成及び取組状況

### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1			
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
学校における職業教育の特色を持っているか	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1

各学科の教育目標、育成人材像は、それぞれに対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1
---	---	---	---	---

① 課題

自動車整備業界からの自動車整備士養成校に対してのニーズは、新技術の導入に伴いますます高くなっていると感じる。昨年度は、自動車産業界にとって脱炭素化に向け大きな転換期を迎えた。整備の基礎は勿論のこと技術の進歩に伴いハイブリッド車・電気自動車、燃料電池車など、いわゆる電動車にも対応できるメカニックを育成することが必要とされる。また、整備士国家資格に関して、令和4年4月に自動車整備士技能検定等の一部を改正する省令が公布され、施行は令和9年1月1日と公表されている。一方、航空産業界では世界的に新たな変異株へ変化する新型コロナウイルスと北欧地域における戦火に伴う航路制限など国内外の航空業界は引き続き大きな試練を迎えている。しかしながらこのような環境にあっても2023年度採用はコロナ禍前と同様に採用が開始されたことは業界を目指す学生にとって明るい情報である。ウィズコロナ時代に向けても質の高いグランドハンドリングスタッフを育成することが重要である。併せて、両学科の共通として社会人としての人間力の育成は求められる。また、学校の理念等の周知についてのその確認が求められる。

② 今後の改善方策

- ・ 自動車業界は、各社メーカーにとって脱炭素化のキーワードは不可欠なものとなり電動車に舵を切って進んでいる。その変化に対応するため、職業実践専門課程の特色を活かし最新の実務に関する知識・技術・技能等を習得させるよう関係業界団体・企業との連携を強化し業界の求める新技術にも対応できる人材育成に努める。また、自動車整備士技能検定等の一部改正に伴い、各級資格の一本化に対する対策にも取り組まなくてはならない。
- ・ エアポートサービス学科においては、専門知識の教育と就職後の就業に直結する本校の特色である校内実習と現地空港での実践実習による人材育成を重視しながら、その質の確保に努める。併せて国際化にも対応した資格取得を図ることが必要となる。また、両学科共通事項として社会人として求められるマナー・コミュニケーション力の向上策として各学年ともに外部講師による講座教育に併せ全職員で指導に取り組む。
- ・ 学校の理念等の周知については、学生手帳への記載など試みており、その把握については保護者向けの学校評価アンケートを活用し把握に努める。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1
------	-----------------------------

運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、有効に機能しているか	④	3	2	1
人事等に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
システム化等により業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 課題

教育活動等の公開は、ホームページを活用しリアルタイムに情報発信することが学生募集にも直結することから引き続き取り組んでいく必要がある。

② 今後の改善方策

自動車学科の国家資格二級自動車整備士100%合格並びにエアポートサービス学科の現地空港での実践実習風景など適時適切にリリースに心掛けるとともにホームページのブログを活用し学校行事などをタイムリーに発信する。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1			
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、人材育成や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確になされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1

関係分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	④	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

#### ① 課題

- 自動車学科では、新機構・新技術の教育に対応できるよう研修会等への積極的な参加による指導力の向上が必要となる。また、新たな検定規定に基づく国家試験に対応するよう取り組まなければならない。
- エアポートサービス学科の校内外の実習は、卒業生並びに採用企業からの評価も高いことから、より実践的な実習となるカリキュラムを編成する。

#### ② 今後の改善方策

- 自動車学科の職員研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により各研修会等が中止・延期となったこともあり、今後は WEB 開催での研修会にも積極的に参加し、資質の更なる向上に繋がるように取り組む。また、令和7年の教科書改訂に伴うカリキュラムの修正に向けた検討会の立ち上げなどの取り組みが必要となる。
- エアポートサービス学科は、校内での実習のみならず、より実践的な実習として佐賀空港に所在する ANA エアサービス佐賀株式会社との提携による現地空港での実習授業と合わせて給油業務の三愛アピエーションサービス株式会社での研修など企業との連携にも取り組み即戦力の人材育成に努める。

#### (4) 学習成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生等の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

##### ① 課題

卒業生の活躍等の把握については、パンフレットの取材等もあり例年より把握ができたと感じるが、そこで得た活躍ぶりなどを職員間で共有できたかという点と十分とは言えない。情報の共有と引き続き企業訪問等を活用して把握に努めていく必要がある。

##### ② 今後の改善方策

企業採用担当者の来校時並びに企業訪問等で知り得た情報を如何に職員間で共有することが重要となる。併せて情報収集の在り方を再検討する。

#### (5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1			
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1

保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生へのアフターフォロー（支援体制）はあるか	④	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

① 課題

大きな課題はないとするも、コロナ禍にあって学生の身上の変化を見極めながら学生の立場と目線に立って問題解決に取り組んでいく。

② 今後の改善方策

- ・ キャリア教育・職業教育の取り組みは、県の啓発事業の高等学校内でのガイダンスに職業教育の一環として併せて学科の魅力を発信するため積極的に参加する。
- ・ 健康管理面では、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた対策は職員間の情報の共有など含め十分取り組めたと判断する。これまで同様に対面授業を確保する上に置いて必須の感染防止対策については徹底を図りたい。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 実習教材等の更新は、計画性をもって進めていく。
- ・ コンピュータ室のWEB環境を整える。
- ・ 自動車学科学生のインターンシップが新型コロナウイルス感染症の影響のため実施できていない。

② 今後の改善方策

- ・ 教材は、時代に即し教育効果の向上を図るため段階的な更新が必要である。
- ・ コロナ禍にあって企業説明会等もZOOM開催が日常となりつつあるなか、環境整備は必要である。

- ・ インターンシップは、協力企業と学生の安心安全を最優先とし計画する。

### (7) 学生募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1			
学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
校納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

#### ① 課題

昨年度に続きコロナ禍の募集広報活動で高等学校訪問並びに各種ガイダンスにおいて何かと制限の多い1年であった。また、姉妹校からの入学者も低調である。このほか、佐賀県下の高等学校からの受験者は例年同様に維持していることから姉妹校と県外からの受験者の獲得に力を入れていかなければならない。併せて広報物等の作成については、募集並びに広報活動に相乗的効果が期待できるものとする。

#### ② 今後の改善方策

- ・ 姉妹高校との連携強化策として、2年生に向けての体験型ガイダンスの開催など進学の魅力など情報提供を早期に行う。
- ・ 県下の高等学校進路担当者等への説明会を定例化し、生徒の体験入学まで一連の行事として年間行事に計画する。
- ・ コロナ禍にあつてのオープンキャンパスの開催は感染状況の推移をよく見極めながら実行していく。併せて、ZOOMなどを利用した説明会の開催も取り組む。
- ・ 佐賀県が主導していただいている啓発事業校内ガイダンス等で学校の特色並びに学科の特徴など魅力発信に力を入れる。

### (8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
財務について会計監査が適切に行われているか	④	3	2	1



財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1
--------------------	---	---	---	---

① 課題

募集定員の充足率向上が問題であり学生募集こそが最大の課題である。

② 今後の改善方策

- ・ 学生募集での改善事項を具現化することが改善の第一歩となる。
- ・ 財務は、学校法人において監査並びに財務公開まで適切に行われている。

(9) 法令等の順守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適… 1			
法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

法令並びに設置基準は遵守されており適正に運営されている。また自己評価結果の公開は適切に行われている。ただし問題点の改善については真摯に取り組まなければならない。

② 今後の改善方策

自己点検評価の最大の目的は、諸々の問題点の改善に取り組むことであり、引き続き全職員の問題解決に向けた意識改革と行動力が必要である。